

福音のよるこびを知るようになる

ジョナサン・エドワーズ著
飯島 徹訳

説教集イエス・キリストの卓越性



森本あんり

ジョナサン・エドワーズの名前は、日本ではあまり知られていない。しかし、植民地時代のアメリカを通して一人だけ思想家を挙げよ、と言われれば、少しでもその事情を知る者はまずエドワーズを挙げるであろう。ペリー・ミラーをはじめとして、今世紀半ばに起こったピューリタン・ルネサンス以来、エドワーズほど注目を集め、研究が重ねられているピューリタンは多くない。その学問領域もまた、神学諸科のみならず、哲学、文学、社会思想、科学史などの多方面にわたっている。

今回、そのエドワーズの説教の一つが飯島徹訳の手によって、読みやすい日本語に移しかえられた。訳者はすでにCLC出版からエドワーズの他の説教も二編訳しておられ、これが三冊めということになる。エドワーズは既述のように多方面で活躍したが、本来はコネチカット渓谷のある町の牧師として生涯の大半を過ごし、説教によって全ニューイングランドの信仰復興運動を導いた人物であるので、そのエドワーズの説教が他の著作に先立ってまず訳出されたのも、あながち的外れなことではないだろう。かつて戦後すぐに西村

書店から出た伊賀衛訳は現在ほとんど入手不可能なので、エドワーズの文章に日本語でじかに触れる唯一の手段として、これらの小冊子はいへんありがたいものである。

「訳者あとがき」にもあるように、訳者は神学を専門としておられるわけではないが、さりとて特に米文学の研究素材を提供するという目的でもないようなので、訳出の動機は主として福音信仰の涵養のためと考えてよいのであろうか。だとすれば、学術的な批評などは触れるだけ野暮だということになるが、書評である以上、二、三の形式的な点だけは触れておかねばなるまい。

第一に、訳出の底本について。エドワーズの著作全集は一九世紀以来何度か出版されたが、批判的な校訂を経ているのは一九五七年以来こにも宮々として刊行され続けているイェール大学出版局の決定版だけである。とりわけ、彼の説教が順次上梓されつつある昨今であるから、訳出はこのイェール版を待って進められてもよかつたかもしれない。さらに、イェール版が必要な部分が入らない時は、一八〇八年〜九年刊のウースター版かその改訂版、ある

である。

以上の諸点にもかかわらず、評者はこの小冊子の出版を喜ぶものである。もしエドワーズが生きていたなら、きっとそんなことには委細かまわず、これによって一人でも多くの人がイエス・キリストの exhortation に触れ、福音の喜びを知ることになるのを喜んでいない。「エドワーズ学者のエドワーズ知らず」ではしかなかったが、その意味でも、この説教は有意義である。

(もりもと・あんり 国際基督教大学・大学牧師)
(四六・一一六頁・一〇〇〇円(税込)・キリスト新聞社)

いは一八二九〜三〇年刊のドワイト版を使うのがエドワーズ学界の常識である。イェール版全集の編者のひとりラムゼーが明らかにしたとおり、エドワーズのテキストはしばしば護教的意図による甚だしい本文改竄を被っているので、どの版を底本に使うかということだけはけつして瑣末事ではない。

第二に、原典にない夥しい改行と二つの大見出しについて。これらはおそらく、読者への配慮として訳者の判断で付加されたものである。多くの改行とゆつたりとした段組みのおかげで、より平明な印象を与えるという利点がある反面、何といつてもこれが最終的には一回の聖日礼拝で語られた一編の説教である、ということが忘れられてしまっておそれがある。百頁という頁数では、一気に語られた説教のスピード感が失われ、かえって説教の流れやうねりから浮かび上がる重要な諸概念が拡散して見えなくなってしまうであろう。

第三に、訳書の題名について。ここに訳されたのは一編だけの説教であるから、『説教集』とは言いがたい。現に本の奥付ではただ「説教」となっている。題名からも「集」の字は省かれるのが順当

● 賛美の回復 三谷和司著

聖書が教える賛美とは

教会での賛美は儀式化されていないだろうか。著者は体験の中から「賛美の本当の目的は、主との交わりを深めていくことにある」と確信。聖書が教える賛美の地位を回復するため本書が書かれた。

B6判・定価一四〇〇円(税込み)

大いなる祝福

●断食祈禱の証と手引き

杉本智子著

B6判・204頁 定価1,450円

韓国においても、台湾においても断食祈禱は盛んである。日本においてもも広がりつつある。そのために日本人自身による手引書が必要であることを痛感していた。この本は筆者の体験による証を含めた「神との交わり」のための活きた指導書である。

二宮忠弘 (台湾長老教会・玉山神学院教授・日本キリスト教団派遣牧師)

●説教 イエス・キリストの卓越性

ジョナサン・エドワーズ

飯島 徹訳 定価1,000円

この説教は1728年になされたもの他の4篇の説教と共に1738年にボストンで出版された。1734年から翌年にかけてマサチューセッツ州ノーサンプトンを中心に展開した信仰復興を惹起し、それを助長したものとして知られる。

キリスト新聞社

☎03(3260)6445

FAX03(3260)6699

〒162東京都新宿区新小川町19-1